

はじめに

本書は愛知大学中部地方産業研究所共同研究プロジェクトとして、『地域と大学における災害と防災教育の研究』の表題の下で、2年間にわたって研究を実施してきた成果報告書である。

これまで本研究グループ（愛知大学中部地方産業研究所災害研究センター）では、南海トラフ大地震を想定しながら、東日本大震災の実地調査研究、大規模災害における地域連携の方向性・問題点、防災政策としての事前復興政策、大学BCPと地域連携の可能性、地域・大学における自主防災組織の現状と課題、大学生による避難所運営の野外実験などをテーマに研究し、順次成果を公表してきた（愛知大学中部地方産業研究所、2023など）。

これらの成果を踏まえ、さらに必要と考えられる、地域と大学における防災意識の向上と防災教育に向けた実行可能なプログラムを作成するための、基礎データの収集が本研究の目的となった。こうした目的を達成するため、先進事例調査を踏まえ、必要な学習内容と方法の検討、ワークショップ等の体験・実験をとり入れた研究を実施した。

本書の内容としては、はじめに防災教育の定義や実情を考察した（第1章）。そして、大学における防災教育の先進事例として、防災の担い手教育に関して兵庫県立大学防災教育研究センターの浦川教授を訪問して、兵庫県立大学における教育内容・教育方法さらには防災教育に関連する様々な事象についてインタビューを実施した（第2章）。また、防災教育について、実際に東日本大震災の津波に襲われた宮城県の各地における震災遺構や震災伝承館について、実地調査を行いその現状と教育効果について分析した（第3章）。

本書はその成果を報告するものである。

【文献】

愛知大学中部地方産業研究所 2023 『愛知大学特別重点研究 『南海トラフ地震を見すえた自然大災害と地域連携を踏まえた大学BCPの総合的研究』 最終報告書（2017～2022年度）』 愛知大学中部地方産業研究所